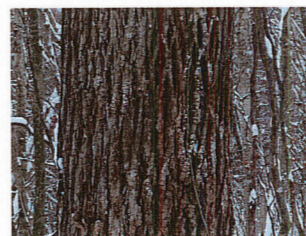


県民の森の植物 64 ハリギリ (ウコギ科)

「山菜の王様」として有名なタラノキの仲間で、若芽は山菜として食されています。葉っぱは大きいものは30 cmほどになり、掌状に5～9つに裂けて、まるで天狗の羽団扇のようです。葉を大きな「桐」の葉っぱに例えて、若い枝には鋭い棘があるので「針桐（はりぎり）」。鋭い棘はまるで凶器のようですが、春、生まれたての棘はプリプリしていて柔らかく、痛い目にあったことのある人は、その感触にビックリすることでしょう。

また、このあたりでは、「センノキ（栓の木）」と呼ばれることが多く、昔はコルク質の厚く柔らかい樹皮をお風呂の「栓」などに利用したことが由来だそうです。

花は、5mmほどの小さな花が球状に多数つきます。実もそのまま球状に集まって出来て、熟すと黒くなります。花も実も、線香花火のように見えて、美しいシルエットです。実は、雪の季節まで残ることが多く、冬、雪上に落ちた実を見つけると、宝物を発見したような嬉しい気分になります。園内随所で見られる身近な木ですが、みんなの広場右奥の「中の島」にある大木はとても風格があります。



樹皮 12月9日



冬芽 3月30日



芽吹き 5月1日



生まれたての棘 5月15日



新葉 6月2日



花 8月13日



雪上に落ちた実 12月2日